

## 個人差がある赤ちゃんの発達 何気ない発言が両親のストレスになることも

熊本大学大学院生命科学研究部小児科学講座

教授 中村 公俊さん

赤ちゃんの発達には個人差があります。大人は「早く歩いた方がいい」「早くしゃべった方がいい」と思っているところが、あるのか、「もう歩いた?」「まだなの?」といった発言を何気なくしてしまいがちです。おじいちゃん、おばあちゃんであれば、孫かわいさから必要以上に心配してしまうこともあるかもしれません。いつもの何気ない発言のつもりでも、それが両親のストレスになっていることもあるようです。

また、育児に関する情報も変わってきます。自分たちが子育てしていたときと違うなと感じたら、「それは違うんじゃない」と言うのではなく、「最近はどうす

るの?」と尋ねてみてはどうでしょう。両親の考え方や最近の育児に関する情報を知った上でアドバイスできるといいですね。

赤ちゃんが病気になったとき、おじいちゃんやおばあちゃんに付き添いなどのお手伝いをしてもらえると、ご両親はきっと助かると思います。その際、その時のお孫さんの状態だけを見て、必要以上に関心することがないよう、治療に関する考え方や経過などの情報を共有しておくことが大事です。普段からお子さん家族とコミュニケーションが取れていれば、何事もスムーズなのではないでしょうか。

# おじいちゃん、おばあちゃんの 出番が多い幼児期 大きく成長する孫としっかりかかわって

幼児期とは、1歳以上から小学校入学前の未就学児（6歳未満）。歩き、しゃべり、遊び始め、保育園・幼稚園での集団生活など、変化が大きい時期です。おじいちゃんおばあちゃんにとってもコミュニケーションが楽しい反面、“今どき”の子ども、子育てに驚くこともあるかもしれません。



言葉の遅れが気になります。基準がよく分からないし、息子夫婦にどう言えばいいかも分かりません。



保護者の不安が影響することも  
健診の時に確認してもらいましょう



赤ちゃんは聞こえた声を口でまねしていくうちにその意味を理解します。言葉の発達には声の刺激や耳の聞こえ、口や舌の運動、脳の発達がかかわっています。

健診の時にも言葉の発達が進んでいるかどうか評価しています。気になるなら、まずは健診のときに尋ねてみるよう伝えてはどうでしょう。また、保護者の不安が影響することもあるので、あまり過剰に心配しないことも大事です。

異常が見つかっても言葉の発達が次第に進んでいけば、訓練をしながら経過を見ていきます。原因によって訓練や対応が変わりますので、心配なときは、パパやママに伝えてみてはどうでしょうか。

以下に、おおよその言葉の発達の目安を紹介します。

## ★1 歳半ころ

意味のある単語を話していればよいでしょう。呼びかけになかなか振り向かないときは、耳の聞こえやコミュニケーション能力を心配します。

## ★2 歳過ぎ

単語の数が増えて、簡単な命令を理解できるころ。2語文を話す子どもも見られるようになります。

## ★3 歳過ぎ

2～3語文以上の文章を話し、簡単な会話ができ、名前や年齢を言えればよいでしょう。

保育園児の孫。ときどき泊まりがけで遊びに来ますが、夜なかなか寝ません。今どきの子はみんなそうですか？

Q  
質問

## 家族で取り組みたい しっかり睡眠をとる生活習慣

A 答え

健康を支えるのは、睡眠、栄養、運動です。現代の幼児は、いずれにも課題がありますが、子どもの睡眠は今、その長さも、就寝する時間にも問題があります。

年齢別に必要な睡眠時間は、1〜3歳であれば1日12〜14時間、3〜5歳は11〜13時間と言われています。生活のリズムを作る時期でもあるので、例えば7時に起きるには夜8時までには床に就かなければなりません。しかし実際には、夜10時以降に寝る子どもが半分近いという民間の調査結果もあります。

これはぜひ改善したいことです。朝、起きられず、朝食をとらなくなる。元気が出ず、外遊びをしなくなるなどの問題行動が徐々に現れてきます。

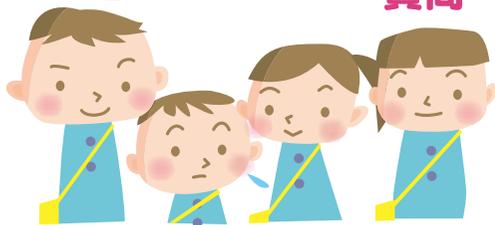
そうならないように早く就寝することの大事さをパパやママにも理解してもらい、家族全体で早寝早起きに取り組むといいですね。

親は標準的な体格なのに、孫は他の子に比べて小さいようで、心配です。

Q  
質問

個人差がある体格や成長  
過剰な心配はしないように

A 答え



息子夫婦は共働きのため、病気の孫を預かる  
ことがあります。どういふことに気をつけられ  
いでしょうか？

**Q**  
質問

母子健康手帳を預かっておいたり  
保育園ではやっている病気など確認を

**A** 答え

お孫さんの状態はもちろん、受診しているかどうか、受診の目安、受診時に伝えなければならぬことなどをきちん確認しておきましよう。保育園ではやっている感染性の病気がないかも大事な情報です。

状況によっては病院に連れて行くことも考えられるので、母子健康手帳やお薬手帳などを預かっておくといふでしょう。

また、判断に迷うときには両親のどちらかに連絡が付くかなども預かる際に聞いておくと安心です。

病院に行く際は、状態や気になることをメモして持って行くことをお勧めします。特に尋ねたいことなどは問診票の最後に書いておくと、診察時間の中で答えてもらえます。これは、両親がお子さんを病院に連れて行くときも同じです。

子どもの体格や成長には個人差があります。母子健康手帳には6歳ごろまでの標準身長・体重のグラフが記載されています。

身長が低い原因の多くは、体質性、または家族性と呼ばれる生まれつきのもので、ほとんどは治療の必要がありません。

過剰な心配は不要な例が多いのですが、ホルモンの異常や骨の異常などによる低身長症では治療が必要になるため、このグラフの標準の範囲から大きく外れている場合はパパとママに確認し、状況に応じて、かかりつけ医に相談するといふでしょう。



子どもなのに、スマートフォン（スマホ）で遊んでいます。もっと外で遊んだり、お手伝いしたりした方がいいのではないかと思いますのですが。

**Q**  
質問

## 心と体の基礎を作る大切な時 メディア漬けの予防は乳幼児から

**A** 答え



日本小児科医学会では、「スマホに子守りをさせないで！」と訴えています。心と体の基礎作りの大切な時期だけに、「メディア漬けの予防は乳幼児から」と、5つの提言をしています。

- 1 2歳までのテレビ・ビデオ視聴は控えましょう。
- 2 授乳中、食事中的テレビ・ビデオの視聴はやめましょう。
- 3 すべてのメディアへ接触する総時間を制限することが重要です。1日2時間までを目安と考えます。
- 4 子ども部屋にはテレビ、ビデオ、パソコン、コンピューターを置かないようにしましょう。
- 5 保護者と子どもでメディアを上手に利用するルールをつくりましょう。

（一般社団法人 日本小児科医学会）

散歩や外遊びなどで親や祖父祖母などと一緒に過ごすことは、子どもの体力、運動能力、五感や共感力を育みます。どうぞお子さんたちとも話し合って、みんなでいい子育て期を過ごしてください。

## ゆとりがある祖父母世代だからこそ お手伝いやおしやべりをともに

社会福祉法人敬人会 認定こども園 わらべ

幼児教育アドバイザー 池田 洋子さん

おじいちゃん、おばあちゃんたちにお願いたいののは、孫に“お手伝い”をさせてあげることです。“お手伝い”は、子どもの成長において、とても大切です。子どもは“お手伝い”を通して観察力や想像力を育み、手先が器用になり、それが脳にも良い影響を及ぼします。

しかし、ゆとりのないママ・パパたちにはお手伝いをさせる余裕がありません。ここは、子ども(孫)がすることを見守り、待つてあげられる、比較的時間にゆとりのある祖父母の出番です。

手伝いができたらしっかりとほめてあげ、たくさん会話を楽しんでください。お孫さんが質問したら、すぐに回答せず、

自ら考えるような言葉掛けが大切です。「これ、な〜に？」と聞かれたら「〇〇よ」とすぐ答えるのではなく、「なんだと思う？」「何かな〜？」など、「？」には「？」で返す」とよいでしょう。

そうすることで、思考力も育ちます。また、ゆつくり会話を重ねることで、語彙(ごい)も豊かになり、コミュニケーション能力も高まります。

忙しい現代の子育てに不足がちな部分を補う大事な役割を担うのが、おじいちゃん、おばあちゃんだと思います。しっかり丁寧に関わって、成長していく孫の姿を優しく見守ってほしいと思います。

# 多くを学んで成長する学童期 孫の声を聞く存在に

小学校への入学は、子どもにとっても親にとっても大きな節目。多くを学んで成長する時期です。学年が上がるにつれ部活動や塾などで忙しくなることも。送り迎えなどを通してふれ合うことが増えるかもしれません。お孫さんの声を聞く大事な存在ですね。



小学校にあがった孫から、ゲームやスマホを買ってほしいとせがまれます。

Q  
質問

本当に必要なものか、  
子ども夫婦や孫と一緒に考えましょう

A  
答え



スマホなどを持つことで子どもたちは、保護者が把握できない多くの人たちとの交流の機会を持つことになります。それによって思わぬ事態を招くことも考えられます。

「友達がみんな持っているから」と言われると買ってあげたくありませんが、ここは、きちんと孫の両親である子ども夫婦と話し合うことが大事です。

両親は、子どもにスマホやゲーム機器を与えることをどう考えているのか、与えるならルールはどうするのか。そういったことをまず大人が話し合い、その結果をお孫さんに伝える。そういった手順を踏むことをお勧めします。

「モノ」を与えることは簡単です。しかし、それが本当に必要なものを子ども夫婦や孫と一緒に考えていける関係性を築いていきましょう。

学校で何かあったのか、最近何か様子が違うような気がします。いじめを受けているのではないかと心配です。

Q  
質問

「何かが違う」と感じたら、  
ゆっくり聞き役になってあげましょう。

A  
答え



学童期は、親から離れたところで友達や先生との人間関係を形成する時期です。その分、いろんな衝突も多くなります。

いつもより言葉数が少ない、元気がないなど、「何かが違う」と感じる事があつたら、とりあえず、ゆったりとした雰囲気できき役に徹してあげてください。

この時期の子どもは、けんかをしたり、意見の違いにぶつかったりしながら、その問題を解決し成長していきま

す。  
話を聞いた上で、いじめなどがあるように感じたときは、そのことを、孫の親である子ども夫婦に速やかに伝えてください。おじいちゃん、おばあちゃんが先走って、学校や相手の親御さんに連絡するのは避けましょう。

## 子どもは大人の「鏡」ですよね。

元熊本県教育長

熊本大学理事(非常勤) 宮尾 千加子さん

孫とは離れて暮らしていることもあり、

また、自分達が子育てしていた頃の考え方が通用するはずもないので、なるべく口出しはしないように、とは思っているものの、どんなに時代が変わっても人間として変わってほならない大切なことがあると考えており、子育て中の頃から繰り返し行動で示し、また言葉で伝えてきたことがあります。

○「あいさつ」をすること。

○「ありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えること。

○悪いと思ったら、素直に「ごめんなさい」と言えること。

この3つのことが心の底から言えるよ  
うな人間であれば、周囲から助けてもらい  
ながらも何とか生き抜いていけるのでは

ないかと思っています。

バスを降りる時、運転手さんに「ありがとうございました。ありがとうございました。」そう言うとき孫も真似して「ありがとうございます。」

子どもは大人の「鏡」です。周囲の大人達の小さな行動の積み重ねが、少しずつ子ども達の心にストックされ行動へと移っていきますよね。

これまでであった様々な職業がいつの間にか消え、私達が予想もしなかった新しい仕事が生み出され、また生み出す時代が来ました。

すべての子どもは社会の大切な宝です。子ども達には、自分が周囲から愛されてきた実感を中心に留め、自分のアタマとココロで考えながら、これからの時代をたくましく楽しんでいって欲しいですね！

# 家族に素っ気なくなる思春期 長い目で見守って

思春期を迎えた子どもたちは、昔みたいに無邪気には接してくれないかもしれません。会う機会もだんだん少なくなるでしょう。でも、おじいちゃん、おばあちゃんを慕う気持ちに変わりがあるわけではありません。少し長い目で見守ってあげてください。

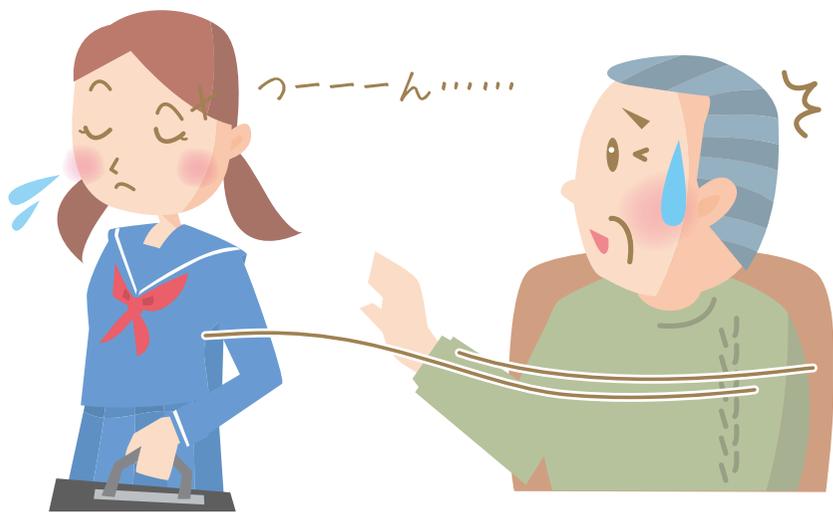


中学生になったら孫がよそよそしくなり、なんだか遠くに感じてしまいます。話したことも伝わっているのか、よく分かりません。

Q  
質問

家庭の外に関心が向く時期  
伝えたいことは  
短いフレーズで端的に

A  
答え



それは、いたって自然なことです。中学生ぐらいになると、家庭の外の世界に関心とエネルギーが向き、さまざまなことを体験し、感じ、育っていきます。そういう成長の時期に入ったということだと思います。その時期を過ごせばまた、ブーメランのように戻ってくるのです。ややよそよそしくなっても、大らかに見守っててください。

また、この時期のお孫さんに何かを伝えたいけば、短いフレーズで伝えましょう。しつこく言わないこともポイントの一つです。お孫さんの「心に種をまく」イメージを心掛けましょう。種はすぐに花を咲かせ、実るわけではありません。すぐの変化を期待しないようにしましょう。ただ、しっかりと種をまけば、後で成果が出るものです。

孫に注意したところ、目つきが変わり、にらんできました。どう接すればいいのか戸惑います。

Q  
質問

欲求が通らないことに  
慣れていない子どもたち  
「それはおかしいよ」と教えて

A  
答え



どうしよう...

今の子どもたちの言動を良い・悪いと言う前に、「以前とは、子どもの世界が『違う』と認識してほしいと思います。欲求が通ることが多い日々を重ねて育ってきた子どもたちにとって、注意を受けたり、要求が通らなかつたりするのは、普通のことではないのです。それで、思わず目つきが変わる。それは、今の子どもにとってはある意味、当たり前の反応かもしれません。

だから、孫の目つきが変わったからといって、うるたえなくていいのです。時には「それはおかしいよ」「違うよ」と毅然と、かつ穏やかに伝え、その理由を伝えてあげてください。

また、そういった孫の態度を「親のしつげが悪いからだ」と、子ども夫婦を批判するのも、よくありません。心配な言動が孫に見受けられたときは、祖父母世代、親世代が力を合わせて、乗り切ることが大事です。

## 親世代の子育ての後方支援を 心掛けたい、間接的な孫育て“

くまもと心理カウンセリングセンター

代表 岡崎 光洋(臨床心理士)さん

子どもたちは時代の空気を吸って育ちます。これまでとは全く異なる空気を吸った子どもたちは、全く異なる空気を吐き出します。それが彼らの行為や発言なのですが、祖父母世代にとっては理解できず、否定的にとらえることが多くなってしまうのです。

それは、自分たちが育った時代の尺度で判断しようとしているからではないでしょうか。さまざまな点で3世代、4世代前とは全く違う社会に育っていることを、まずは認識してほしいと思います。

そんな現代の子育てに親世代も戸惑っています。ですから、祖父母世代には、親世代の子育ての悩みを受け止め、支え

る後方支援に努めてもらいたいですね。元気で経済力もある祖父母は、思いの外、孫に対して影響力が大きいのです。孫の問題に直接介入することで、親が板挟みになったり、子どもに対して非力になっていく家庭も見受けられます。

親を後ろから支えることで、“間接的に孫育て”してもらえると、親はありがたいでしょう。

また、思春期の孫と接する際は、あっさりとした声かけ、あっさりとしたやりとりを心掛けましょう。遠巻きに見ているくらいが、ちょうどいい距離感だと思います。

# ご存じですか？ 「ファミリー・サポート・センター」や 「地域子育て支援拠点」、 「くまもと子育て応援の店」

ご自身にお孫さんができ、子育てサポート・孫育てに携わるようになった皆さんに、お孫さんを連れていったり、自身が参加したり、子育て世代に教えてほしい場所やサービス、制度を紹介します。



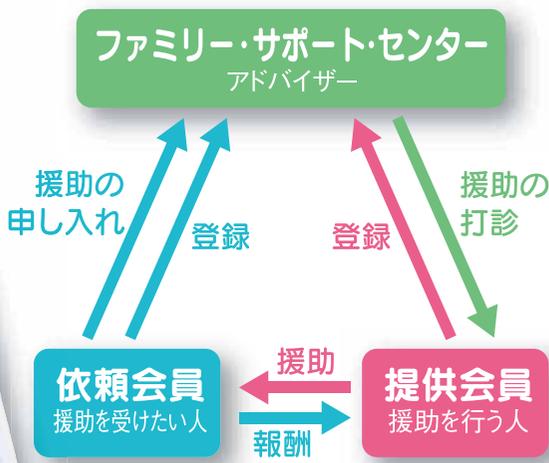
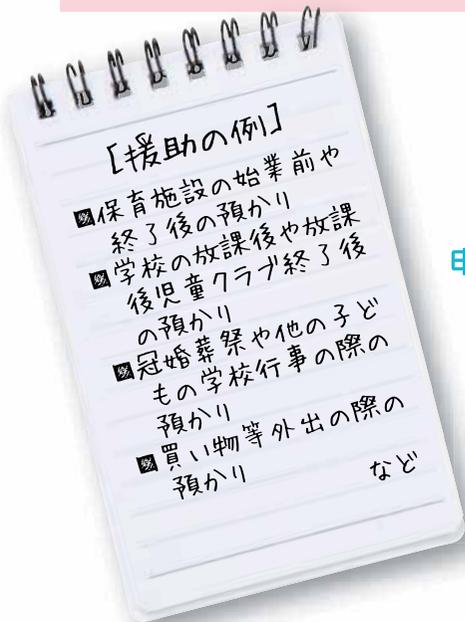
## 地域で子育てを 手伝ってみませんか？

ファミリー・  
サポート・  
センター

各地域で、子育て支援をやってみたい  
というときに、ファミリー・サポート・  
センター事業という仕組みがあります。

- この事業は、市町村が実施主体となっ  
て行うもので、令和6年4月時点では  
県内28市町村で実施されています。
- 子育てを手伝ってほしい人（依頼会  
員）を、子育てを手伝いたい人（提供  
会員）が援助する組織です。
- 依頼会員と提供会員はお互いの希望  
に合わせて、事前に会って打ち合わせ  
をします。親子共に安心です。
- 提供会員になるためには、事前に研修  
を受講する必要があります。

ファミリー・サポート・センターのしくみ



お問い合わせはファミリー・サポート・センターへ

|      |               |       |                |
|------|---------------|-------|----------------|
| 熊本市  | ☎096-345-3011 | 和水町   | ☎0968-34-2366  |
| 八代市  | ☎0965-33-8721 | 南関町   | ☎0968-69-9020  |
| 人吉市  | ☎0966-24-9192 | 南阿蘇村  | ☎0967-67-0294  |
| 水俣市  | ☎0966-63-8411 | 長洲町   | ☎0968-78-4100  |
| 荒尾市  | ☎0968-68-0055 | 大津町   | ☎096-294-9511  |
| 玉名市  | ☎0968-79-7077 | 菊陽町   | ☎096-232-4824  |
| 天草市  | ☎0969-32-2552 | 西原村   | ☎096-279-4141  |
| 上天草市 | ☎0969-56-2455 | 御船町   | ☎096-282-6009  |
| 山鹿市  | ☎0968-44-8800 | 嘉島町   | ☎096-237-5559  |
| 菊池市  | ☎0968-25-5000 | 益城町   | ☎096-289-1631  |
| 宇土市  | ☎0964-27-3322 | 甲佐町   | ☎090-1513-5328 |
| 宇城市  | ☎0964-27-5353 | 山都町   | ☎0967-72-1928  |
| 阿蘇市  | ☎0967-32-1127 | あさぎり町 | ☎0966-47-2111  |
| 合志市  | ☎096-242-7008 |       |                |
| 玉東町  | ☎0968-85-3150 |       |                |

# 遊びに行こう！

## 地域子育て 支援拠点

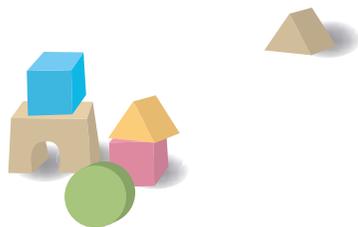
保育所や公共施設、児童館などの地域の身近な場所に開設される子育て支援センターやつどいの広場などの「地域子育て支援拠点」という施設があります。主に乳幼児（0～3歳）がいる子育て家庭の交流や育児相談、情報提供等を行っており、地域の子育て力の向上を図る施設です。

令和6年4月時点では県内39市町村118箇所の子育て支援拠点施設があります。所在は熊本県結婚・子育て応援サイトを「[ご覧ください](#)」。



◀玉名市地域子育て支援センター「ログさんち」。  
折り紙で遊んでいる様子

▼同センター。  
料理を楽しんでいる様子



■熊本県結婚・子育て応援サイト hapiモン

<https://www.hapimon.jp/>

# 孫を連れて

## くまもと子育て応援の店

「子育て応援の店」は、お子さんのいるご家庭への各種割引やおむつ替えの場所やミルクのお湯の提供など、お出かけのサポートをしてくれるお店です。熊本県では、「子育て応援の店」を募集・登録して、熊本県結婚・子育て応援サイト「hapiモン」や「聞きなっせAーくまもと」で簡単に検索できます。

子育て応援の店の概要・  
子育て応援パスポートは  
こちらから



全国共通



※平成28年4月から、熊本県だけでなく、全国でもサービスが受けられるようになりました。



「聞きなっせAーくまもと」の  
登録はこちらから



「聞きなっせAーくまもと」は、LINEの友だち登録だけでAーくまもとが24時間365日、妊娠／出産／就学未満のお子さんの子育てについてのお尋ねに回答したり、「子育て応援の店」を教えてくれるサービスです。



---

**編集・発行**

**熊本県子ども未来課**

〒862-8570 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

TEL:096-333-2225 (ダイヤルイン)

FAX:096-383-1427

E-mail:kodomomirai@pref.kumamoto.lg.jp

発行年度：令和6年度

---